

中山脩郎先生と共に～90年物語～

我が人生の恩師、中山脩郎先生

自分に就いて人に優しい医師、大きく包み込んで生きる姿の背中を見せてくださいました。禁煙のアイデアが思い浮かぶと夜中も携帯電話に「録文字」付きのメールが「思い出しに残る言葉」は通常の診察だけではその存在価値が低い。社会に出て行き活動することこそ、その存在価値「自分と同じ年代と付き合うのもいいが、できるだけ若人とお付き合いやすい」（医師の学生との飲み会）「禁煙指導のマニュアルは平易で理解しやすい言葉で！実地医家が親しみやすいもの」「吸わない世代を育てることが重要。防煙教育の徹底」「学校の教諭、PTAに常に目を向けること」「企業における産業医の役割は重要。健康寿命延伸のために禁煙活動」「健康政策が見る政治家を応援すること」「行政との繋がりを重視して活動すること」「死ぬことは恐くない。この世とあの世は繋がっている。PPPってどう！」感謝！！

長谷 章（禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議理事、神奈川県内科医学会禁煙推進委員会委員長）

中山脩郎先生へ

先生の教えのとおり、第27回禁煙推進医師歯科医師連盟学術総会を10年前と同じ横浜市民開港記念会館で行うために、長谷先生、加瀬先生、水嶋先生らを中心に、準備を進めてきました。先生がいらっしゃればまだ進捗がなかったかもしれませんが、進められた有志が実行委員会と和気あいあい議論しながら当日を迎えることができました。先生は、いつも熱心で、動きも素早く、最後の最後までお元気で活動されていました。「禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議」も、中山先生という強烈なリーダーを失いましたが、今後とも禁煙・受動喫煙防止に向けて、皆で力をあわせて進めたいと思っています。是非、天国から見守ってください。

中沢明記（禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議会長代行）

行動の人 中山脩郎先生

私は2014（平成26）年3月9日に第4回日本小児禁煙研究会学術集会を会長として横浜で開催させていただきました。此の時、「禁煙、分煙活動を推進する神奈川会議」の会長である中山脩郎先生には多大なご助言とご教示を頂戴いたしました。学術集会はウヰリング横浜（上大岡）で開催しました。事前に中山先生して事務局としてご協力頂いた水嶋春樹先生らと会場の視察をしました。何と、会場階の奥に喫煙所を発見！早速、中山先生に従って神奈川県タバコ対策室にクレームを入れ、そして後日、中山先生とともに横浜市保健所長に直接面談をしました。開催当日は他用でご出席が叶わず、ご供覧の祝電をいただきました。

『貴会がますますのご発展を祈念しつつ、七年以内に未成年喫煙者ゼロを目標に、ともに頑張ります。』

禁煙、分煙活動を推進する神奈川会議 会長 中山 脩郎

中山先生の行動力は凄まじく、10年前の日本禁煙医師歯科医師連盟総会の横浜開催にあたって、当時の松沢成文知事との面会前に、先生は持病の腰痛で起立位が保てない状況で、車庫の廊下で足に足を投げ出して座られ、打ち合わせをされていました。しかもその数日後にはテルアビブの難民キャンプに医療奉仕に向かわれるというお話をされていました。当時から80歳を越える高齢でしたのでびっくりでした。常に私は縮れっぱなしでした。まだまだ若造の私達はもっと頑張らねばと思っております。

藤原芳人（禁煙、受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議理事）

悪意に満ちた大人～中山脩郎先生はいつも見守ってください

「禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議」での議事進行は、出席者全員を見守り、様々な意見を引き出す名人でした。いろいろな人脈の糸を丁寧に編んで、束ねて素晴らしい出会いをたどっていただきました。若い学生との交流を愛され、「禁煙学生の手帳」（学生と先生の交流会）はいつもすかすかといつも開きかけられ、メールアドレスkonoval.123からも、携帯電話からも、思いつたらずにご連絡をいただきました。ハイボールを片手に左様を拝見していただいた地蔵菩薩のような中山脩郎先生。悪意に満ちた温かいお言葉で、人生の厳しさを、困難を乗り越える力を分けてくださいました。いつも見守ってください中山先生は深い胸の奥にいらっしゃる。これからも中山脩郎先生と共に生きていきます。

水嶋春樹（禁煙、受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議理事）

仕事は熱く、私事はあたたかい中山脩郎先生

中山先生から時々、突然お電話をいただき、きつい仕事を抑えつかったこともありまして。昨年4月26日、神奈川会議の理事会を終った後、お声がかり、また仕事か！と思い、おそばに行ってみると、「君はこれを待っているのか」と、10年以上前の私が取材した新聞記事を読みました。それが中山先生とお会いした数朝前になりました。私が新聞記者のために、どうしたのかと心配いただきました。仕事は熱く、私事はあたたかい方でした。

原田 久（禁煙、受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議理事）

神奈川会議医学部学生交流会写真 2014.12.19



藤原芳人
松田隆秀
中山脩郎先生
水嶋春樹
原田 久
長谷 章

中山脩郎先生のこと

神奈川会議の事務局長をお引き受けして、中山先生との付き合いが深くになりました。とにかくアクティブな先生でした。打合せを求めても、すぐに関係の方に携帯電話を入れ、相談、依頼等調整をいれずに結論を求めて動きました。私が神奈川県医師歯科医師連盟を非常勤に就いて、自宅にいたことが多くなったのですが、頻りに携帯電話やFAXでやり取りをして、横浜の事務局にいたのと同じ状態での連絡を取らせていただきました。66くなりになる昨年4月最終週の水曜日（26日）には平成29年度第1回（通算第10回）神奈川会議理事会、そして金曜日（28日）にも今回の第27回日本禁煙推進医師歯科医師連盟学術総会の打ち合わせを行い、「ではまた連休明けに打合せをしよう」とおっしゃって、普段と変わりなくお元気に協議の事務局を出ていかれました。その24時間後（29日）にお亡くなりになられたことは、今でも信じられないです。中山先生と一緒に仕事をさせていただき、人生の師として計り知れない多くのことを教えていただきました。本当にありがとうございました。

栗原 博（禁煙、受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議事務局長）

中山脩郎先生と共に～90年物語～

「宮川先生、足りないものがあります。今すぐ、探してください」電話口からツツザラとした雑音に変わって、中山先生の声がかんこえた。「心電図。電源がないので、電池式のものですか」「中山先生、どこにいらっしゃるのですか」「サエゴ、どこ、サエゴです」時は1992年から1995年まで続いたボスニア・ヘルツェゴビナ紛争の直後であった。あらゆる者が虐殺や強制収容あるいは強姦の対象とされていた内戦の後であった。アウシュビッツの強制収容所を必死に行きつこうと、常に話されていた先生にその後の人生が驚かされることになりました。「資金援助が必要なんです。バレスチナの人たちが困っているのです」クリスマスであった中山先生からの口から出た発言だったので驚いた。「バレスチナの人たちが作った作品を売りたいのですが、講演会場の横で売ることが出来ないだろうかと。考えてください」中山先生の頭の中には、民族の壁はなかった。困っている人がいれば寄り添い、手を差し伸べることに躊躇はしなかった。実際に、バレスチナの現地に足を運び、聴診器一本で現地の人たちの手に触れ行動した。わたしは忘れない。「できる限りのことをしなさい」と言って、私の手を包み込むように握ってくれた先生の手を。そして、その力強い声を。

神奈川県内科医学会会長 宮川政昭先生

中山脩郎先生追悼文

16年前の早春の頃でございます。私の肺がん診療の師より突然入室があり、明日の診療後に晴陽軒の会議室に来るよう指示がありました。何事かと思索しながら迷走して息を弾ませ、約束の10分前に到着し、ドアをノックして入室致しました。正面に中山脩郎先生、右隣に小田切樹先生、左隣に政南澤康雄先生、手前に渡部吉志郎先生が着座されており、残る椅子に着席を促されました。「さて小野先生、次年度から呼吸器疾患の知識をふやす会の世話人をお願いしたいのだが異存はありませんか。大丈夫ですね。大丈夫ですね。」これが中山先生とのファーストコンタクトでした。以来今年の春まで変わらぬ薫陶を受けることが出来ました。私にとり最高の名誉であります。ここに謹んで哀悼の意を捧げたいと思います。

小野 容明（横浜市医師会 横浜内科学会会長）

ほほほほ

先生と私のお付き合いは古く、私が平成7年、県内科医学会の常任幹事になった年からご逝去された平成29年4月29日迄です。特に親しくなりましたのは平成15年横浜開催の日本臨床内科学会の実行委員長の時からです。記憶に残るのは先生の鬼気迫るリーダーシップと決断力と10年先を見据えた委員会展開（禁煙、認知症、生活習慣病）の突破のお顔であり、今一つは、共に名誉会長とした27年以降各委員会で「妻とこれから晩酌しながら食事します」と何とも言えない柔和な笑顔を浮かべて中途退席されていたお顔は小生の脳裏に終生刻まれております。

中 佳一
（神奈川県内科医学会 前会長
神奈川県内科医学会「健康長寿社会を目指す委員会」 委員）

神奈川県内科医学会「健康長寿社会を目指す委員会」での思い出

中山先生は日本の超高齢社会に向けて、「死の受容」のあり方を医療・介護関係者だけではなく社会一般の方々にも考えてもらいたいと考え、当委員会を立ち上げられた。この委員会における活動の一つとして、「宗教者との懇話会」を立ち上げようとした。その記念すべき第一回ははくしくも先生が亡くなられた翌日、平成29年5月1日に開催された。当日は、中央の席に中山先生がいらっしゃるものとして、「死」を超えた繋がりで会は進められた。

高見沢重隆
（神奈川県内科医学会健康長寿社会を目指す委員会副委員長
横浜内科学会副会長
禁煙、受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議理事）

中山脩郎先生を悼む

人生の最後まで全力で、診療や各種活動に、自ら先頭に立って邁進された姿が尊いと思えます。亡くなる前日横浜内科学会幹事会で、後輩の私たちにメッセージを遺ってくださっていました。90歳を過ぎては勉強会にマメに通って来られました。豊富な経験からズバットと直言され、後輩たちの進まない議論、遅い行動を歯がゆく思う毎日であったことと思います。ピンポイントのお手本でした。私もかかっていたと思います。ご冥福をお祈りします。

長谷川 修（横浜内科学会副会長、横浜立大名誉教授）



2013年11月 長谷川 修 撮影

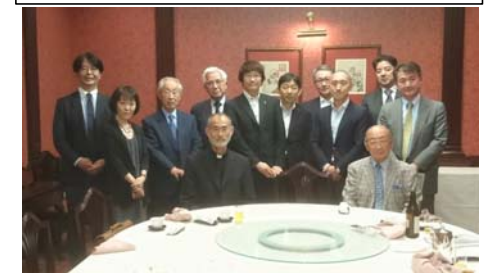
自ら省みて直くんば、千万人と雖も吾行かん

老若男女を愛し、90年の命を燃やし尽くすまで、啓蒙活動を根気強く継続。人として医師として、先生の姿勢に心をなやませる弾かれ多くの仲間が集まりました。大学や医師会を超えて、究極のハローになりうる一般市民による会の灯もともされました。もののみの矜持を感じ取った我々の世代が、この灯を消すことがあてはまらない。こんこんと熱いままで喫煙の害を説かれる。ユーモアを交えて包み込むように、その視線の先は、時空を超えて健康で元氣な社会を信じてやまない。

田口博基（港南 禁煙・分煙をすすめる会会長、たぐら脳神経クリニック院長）



健康長寿社会を目指す委員会会食 2017年5月1日



後列左より 水嶋春樹、山岡みらほ、行天良雄、加行 尚、池内龍太郎、高見沢重隆、小野容明、井川裕賢、永井一敏、久保田毅
前列左より 小田成彦、中山脩郎先生席、玉山 免（敬称略）

故中山脩郎先生を偲んで

中山先生は、カトリック医師会のご紹介で、2014年より2016年12月24日まで、全6回担当いただきました。土曜医療相談の電話担当にいらっしゃる時は、いつもエネルギーに満ちた力強いお声で、「相談者が大変な状況におられるなあ」、「勉強になります」、「他の先生の都合が悪いときは、何回でもききますよ。」と声をかけてくださいました。ひとりひとりの相談者に深い思いやりと愛情をもって誠実に真摯に担当をしてくださいました。時には、「映画になるぐらい前から、遠藤周作の『沈黙』は読んだ方がいい。キリスト教弾圧の霊仙には一度行ったりほうがいい』とスス先生に薦めてくださったり、社会問題など多岐に亘り幅広いご見識で、気さくにお話くださったこと、今のこのように思い起こされます。長い間、いのちの電話の活動にご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。いのちの電話の活動を深くご理解くださり、精力的に関わってくださいました中山脩郎先生のお志を受け継ぎ、ひとりでも多くの相談者の悩みに耳を傾けてまいります。中山先生も天国でお見守りくださっていることを信じております。

植村みどり（社会福祉法人いのちの電話事務局長）

中山脩郎先生の思い出

先生は日本カトリック医師会横浜支部の先生でしたが、東京支部の例会によく参加して下さい、貴重なご意見をいただきました。禁煙問題には大変熱心にご講演をいただいたことでもあります。平成18年ベツレヘム難民キャンプを中心に、日本国際ボランティアの手伝いでイスラエルに入国する際、カトリック医師会の証明書をお願いされたことでもあります。多方面に活躍された先生でした。90歳を過ぎて「阿、大丈夫だよ」とおっしゃって車で運転しておいでになり、會員を驚かせていました。ご冥福をお祈りいたします。

和田恵美子先生（カトリック医師会東京支部支部長）